

佐藤尚巳

SATO NAOMI
Front Line



通り、街を意識した建築のデザイン その壁の裏側で本来の機能を満たす 建物も社会の一員という立場に立って設計



佐藤氏の主宰する佐藤尚巳建築研究所のアトリエは東京・中野区の閑静な住宅街にある。

今回は東京国際フォーラムを手がけたことで知られる建築家、佐藤尚巳氏にご登場いただいた。

同氏は現在、日本の建て替え文化に大きな疑問を感じている。百年、二百年という耐用年数を持たせることが可能な、コンクリート建築や鉄骨建築を、三十年、五十年というスパンで壊し、立て替えをしてしまう日本の建築常識に異論を唱える。

そのために、街の通りを意識し、街を意識した建築のデザインを行うことに重要性があるという。

今世紀、機能主義の建築が主流になったことで、今や、日本の街は前面に開放廊下をもつマンション建築を始めとし、特に街の外観は混乱の極みにある。この現実を変えるためにも、佐藤氏は「百年の大計」に立った建築の必要性を力説するのだ。

FRONT LINE
[建築家インタビュー]

佐藤尚巳 3

通り、街を意識した建築のデザイン
その壁の裏側で本来の機能を満たす

ARRANGEMENT
[導入事例]

日本都市センター会館 10 パインフィールド吉祥院 12

COMトーク Vol.2
人に優しい駐車場設備 2
井原慶子

VISION
再開発緊急促進要綱に基づく
都市整備の展望 8

NEW Lineup
CSパーキング・
2リフト方式 9

ANOTHER PROJECT
駐車設備リニューアル
物件のご紹介 14

TREND
ハンドヘルドPCで施
工写真をメールで送る 15

COMトーク Vol.2 人に優しい駐車場設備

今年の春まで一年間、安全運転スクールのインストラクターをしていたのですが、初心者や女性ドライバーは立体駐車場など、機械式駐車場に入れるのが難しいのではないかと、先入観を持っている人がまだまだ多いようです。

特に車幅の広い車に乗っておられる方などは、入庫させるのが大変だと思ってしまうようです。ですから、二十分や三分の買い物ですと、それくらいなら大丈夫だろうと、つい路上駐車をしてしまうのでしょ。

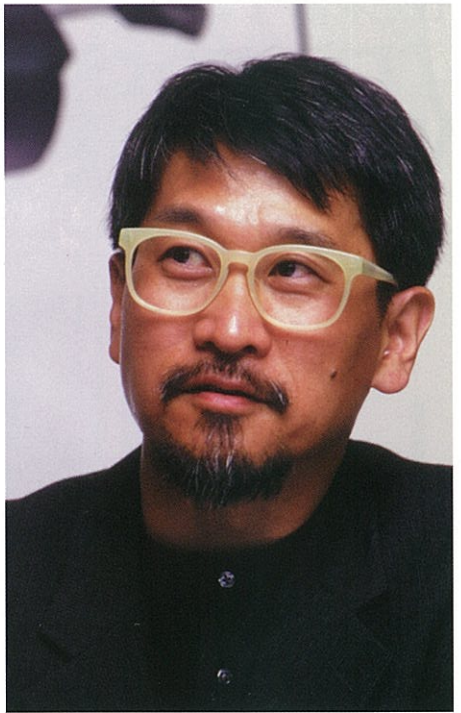
最近では機械式駐車場の入庫の練習ができる設備が自動車教習所にも入り始めましたし、一度、係の方に親切に誘導してもらった経験をつめば、そんな先入観もなくなって、もっと気軽に利用できるようになると思います。

ただし、入庫の前にターンテーブルがなく、切り返しをしないと入れられないものや、後進で出さなければならぬ機械式駐車場は、やはり初心者の女性ドライバーにとっては少し難しいですね。できれば、そういった古い設備は是非、前進入庫、前進出庫が出来る新しい設備にしたいだけと助かります。



●井原慶子●

■1975年東京都生まれ。法政大学経済学部卒。元レースクイーン出身の女性レーサー。今年春から「フェラーリ・チャレンジ」に参戦。国内の5戦のうち4戦、5戦に2連勝し、11月イタリアで開催される世界一決定戦に出場することも決定。学生時代は全国学生モデル第10位のスポーツ万能ウーマン。



佐藤尚巳

SATO NAOMI
Front Line

佐藤氏が建築家を志すきっかけになった高校生時代の思い、そして就職、アメリカ留学時の体験からお話をスタートしていただく。さらに、六年九カ月に及んだ東京国際フォーラムの設計・監理を

経て、氏が気づいた現代建築の矛盾と、本来あるべき姿とは。そして、今や建物とそれを造る建築家も社会的使命を果たす時代が訪れたことなど、氏の考える新しい建築像を語っていただいた。

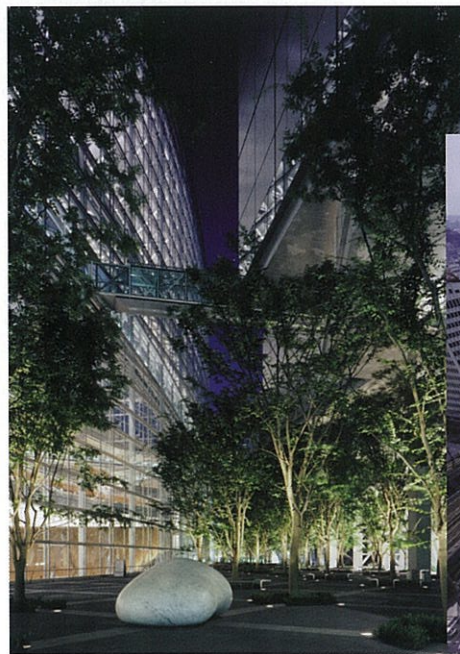
何が建築に求められているのかを深く掘り下げて設計する姿勢が大事

もともと模型を作るのが好きで、自分自身はモノを作る職業に関わりたかったと考えていた。そして、高校時代、大学の進路を決める時に建築って面白そうだなと漠然と思ったのが、建築家になるきっかけです。あと、クラシック音楽が好きでして、その頃、日本にはいいコンサートホールがなかったんです。ですから自分で是非、音響のいいコンサートホールを設計してみたいという夢はありました。

たまたま、二年先輩の大江匡さんや、大江さんの事務所の副所長をされている、一年先輩の原田さんが、続けて菊竹先生の事務所に行かれました。また、その当時の研究室の助手だった富永さんも菊竹事務所の出身でしたので、なんとなく親近感がありました。また、先輩たちの話を聞くと、菊竹先生は若いスタッフをどんどん現場に出して、いろんなことを経験させてくれるということでしたので、そこに決めました。菊竹先生の事務所では、建築に取り組み姿勢を学ばせていただいたような気がしますが、建築に対するこだわりといますか、

図面だけ書いて、それを渡せばモノができるというだけではなく、現場に行くと図面通りに出来ているかをチェックするの大事ですが、図面に書いたことが現場で原寸で見るとスケールアウトしているとか、環境にそぐわないことも往々にして起こりますから、「現場ですべてチェックして、原寸で自分が正しいと思うものを作りなさい」という教育を受けましたね。入って半年か一年のうちに、南太平洋のラバウルにある戦没者慰霊碑の現場まで行かせてもらいました。二年目には学習院大学の中高等科の第二体育館の現場をさせてもらいまして、現場で建築の作られ方や、何がデザインとして重要なのかを身をもって勉強させてもらいました。それが、今でも自分の身体の中に染みついていきますね。図面を書きながら、1対1の寸法で大丈夫かというのを、常に自分の中でフ

てました。その頃、日本ではポストモダンですとか、表層のデザインをやるのが、随分はやっていた時代でした。自分もそれに影響をされていたのか、形をきれいに作って、パツと見の面白い建築のデザインをやっていました。そうしましたら、中身がないというのを見抜かれてしまいましたね。モデオ氏が



写真左：東京国際フォーラムの中庭の夜景

写真右：佐藤氏がラファエル・ヴィニオリ建築士事務所・東京事務所長時代に手がけた東京国際フォーラムの全景

コンクリート建築主体になっても変わらない日本の建替文化

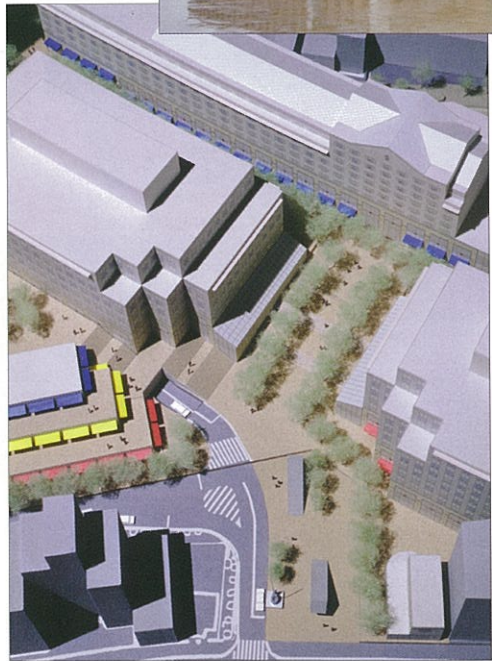
日本の建築はともすると、平面を作ると、ファサードはわりと貼り付けで作ってしまうようなところがあります。しかし、I・M・Peiでは、街全体からこういうファサードが望ましいという所から攻める。それと同時に、プランはプランでまったく別のスタッフが同時に進行して進めます。その両方が行ったり来たりしながら設計を進めていくのです。そういうやり方というのは初めて経験したのですけれど、手順としては非常に新鮮な設計ではないかと。その事務所に二年ほどいまして、そろそ

ろ日本に帰ろうかと思った時に、ラファエル・ヴィニオリが東京国際フォーラムを取りました。なんとなく、ラファエルの設計スタイルは、自分がやろうとしていたことに非常に近いものでしたから、すんなりとそのデザインに溶け込め、惚れ込めました。それで、ラファエルの門を叩いて、一緒に仕事をさせてくれということで、事務所に入りました。入ってすぐに、若い事務所ですから、スタッフも少ないですし、自分が日本人として東京の事務所に行きまして、それから六年九カ月、東京国際フォーラムの仕事に関わり、設計から現場監理まで、ずっとやらせてもらいました。東京国際フォーラムがほぼ終わりがけの頃ですが、いろんなことを振り返って考え

てみて、気づいたことがありました。都市の再開発などで、あるものを壊して、別のものに建て替えることの社会的影響みたいなものが、いかに大きいかを身をもって体験したからです。フォーラムの場所にも歴史的な建物がありました。それを壊して、新たに文化施設を作ったわけですが、でも、それが果たして都市として正しいことなのかと、随分、疑問に思いました。日本の文化の中に、建て替え文化は厳然としてあります。それは、木造建築の寿命から、たとえば三十年から五十年経ったら、その建物を維持するよりも、全部壊して建て替える、更新が当たり前のように行われています。それと同じ感覚で、コンクリートの百年、二百年保つような建物も、壊して建て替えてしまいます。どうも、日本を見ますと、それが正しいという考え方で社会が回っている気がするのです。建築業界もそのサイクルの中で、会社の成長や利益を考えて、仕事量を想定しているわけです。そして増築や改築はコスト高になると説得を始めるということがありま



写真上：南通英青服装有限公司工場（中国・上海）
写真下：ある都市再開発計画の街並デザイン



PRESENT CORNER



**日立
ペルソナ
HPW-600JC**

今号ではデジタルスチルカメラの画像データも、素早く取り込めメールで送ることのできるウィンドウスC Eを搭載したハンドヘルドPC、日立「ペルソナHPW-600JC」を読者の皆様の中から、1名様に限りプレゼントさせていただきます。

2 東京国際フォーラムCD-ROM



FRONT LINEでご協力いただいた佐藤尚巳氏が、設計・監理された「東京国際フォーラム」。そのすべてを1枚のCD-ROMに収めた「東京国際フォーラム」を読者の方5名様に限り、プレゼントいたします。

3 CD Organizer



コサリーベルマン株式会社の好意により、全世界で愛用されているケースロジック社製のCD-ROMも収納できる「CDX-100」を読者5名様に限りプレゼントいたします。

**ケースロジック
CDX-100**

●応募方法●

上記3点の読者プレゼントの応募方法は、同封の「アンケートはがき」に必要事項をご記入のうえ、ご希望の賞品名を明記し、封筒のラベルに印字されているお客様番号をお忘れなくご記入いただきまして、はがき表面に記載しております「日精PS営業本部営業推進部」までご返送ください。厳正なる抽選のうえ、プレゼントの当選者を決定させていただきます。また、プレゼントご応募の締め切りは1999年10月末日消印までを有効とさせていただきます。なお、プレゼント当選者の発表は当選されました賞品の発送をもちまして代えさせていただきますが、次号のCOM誌上におきましても一部の当選者を発表させていただきます。

「COM vol.12」プレゼントの当選者
COM12号のプレゼントには、多数のご応募をいただき大変ありがとうございました。厳正な抽選のうえ、遠藤 厚様（岩手県）ほか25名の皆様が当選され、賞品を発送させていただきました。



写真上：普陀区政府机关办公楼設計方針

佐藤尚巳
SATO NAOMI
Front Line

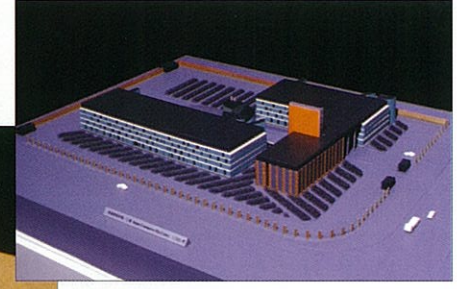


主な作品/業務経歴
日本外国特派員協会部分改装計画/南通英青服装有限公司工場/上海英瑞事務所1期、2期、3期/渡辺邸増築/南麻布の家改装/香港英瑞事務所改装/参宮橋マンション改装/英瑞本社改装/中野の家/目白の家
(佐藤尚巳建設研究所)

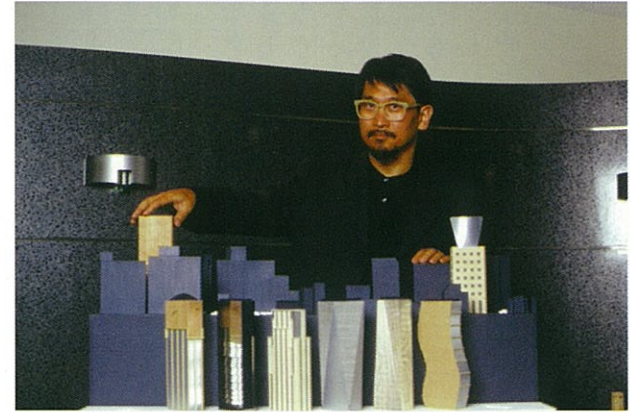
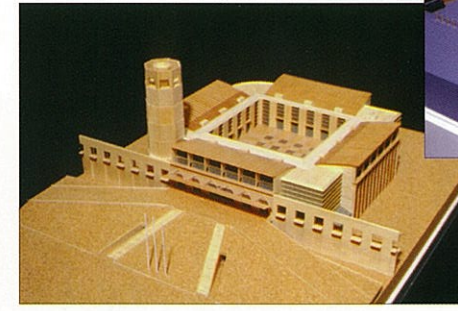
東京国際フォーラム
(ラファエル・ヴィニオリ建築士事務所)

Docklands Square Tower, Canary Wharf, London/
International Trade Center Barcelona/
Thamesgate Office Building, London/Kansai
International Airport, Osaka
(I.M.Pei and Partners)

西友行徳店/京都信用金庫亀岡支店/西友穂高店/西友塩尻店/福岡市庁舎議会議事棟/学習院中等科第二体育館/南太平洋戦没者慰霊碑/福岡市庁舎
(以上、菊竹清訓建築設計事務所)



写真中：英瑞会館2次案
写真下：英瑞会館1次案



環状6号線の地下に建設中の環状高速道路の、高さ45mの換気塔に対する佐藤氏のデザイン提案

街の百年の大計に立った発想から 建物の作り方を考え直す時代

そんなことから、改装や改築にも、興味を持つようになりました。また、折角、建物を新しく建てるのであれば、社会資産となるような百年、二百年、街の中に残って、街の顔を作っていくような建物の作り方をすべきであると考えようになったのである。

それから、自分は社会のために街の空間を作る。百年の大計に立って、この街はどうあるべきか、このために、この建物はどのようなファサードを作るべきかということに関心を持つようになった。

二十世紀に建築の機能主義が唱えられ、一般に浸透しました。今の建築の法体系も機能によって、階段の位置ですとか、開口

一つひとつのマンション建築だと思っておりますが、道路に対して背中を向けて、開放廊下が前面に出てくるわけです。本当に利己主義の建築で、街並みのことなどは一切考えていないですね。それでどういう街ができるかというと、やたら廊下があつてそこに蛍光灯がぼつぼつ並んでいるという、見るも無惨な街ができてしまっています。これは今の建築の主流ではないのことも知

パーキングのターンテーブル 空間を利用する建築ができれば

費用対効果の問題もあるのですが、オーナーの方々は駐車場を設計する時には、最も安い経費で、高い収入を得ようということになりま

うまで気が回らないのかもしれないが、街の中であるべき姿というものがあ

ると思います。駐車場のビルといえども、やはり街の中でヒューマンスケールを破壊するようなものであつてはいけません。街の景観をおかしくするようなものであつてはいけません。



佐藤氏は、最新の機械式駐車場設備や機構・システムにも造詣が深い。

これは少し、ポストモダン的な発想かもしれませんが、表面にグラフィック的な処理をするなり、建築的な処理をして、街の一員としての顔を作るべきだと思います。また、駐車設備の前には、回転するターンテーブルを設置するスペースが必要になります。

そうしますと、駐車設備本体はその分、横か後ろにずれるわけですが、後ろに行った場合、手前の数メートルの空間が空くわけですね。そこを利用して、建築的に使うようなやり方をすれば、駐車設備は後ろに隠れるわけですから、何かできるような気がするので

それはワンルームマンションがやつとできるほどの、猫の額ほどのスペースになるのでしようけれども、たとえば、それがこじんまりとしたショップや飲食店などであれば、十分成り立つわけですから、何か、そういうものを付随させてあげると、単なる駐車設備が建つだけではなく、街の顔が作れるような可能性も出てきます。

●PROFILE●

1955年東京都生まれ。建築家。佐藤尚巳建築研究所代表取締役。79年、東京大学工学部建築学科卒業、88年、ハーバード大学デザイン学部大学院終了。79年、菊竹清訓建築設計事務所勤務。87年、Cambridge 7 Associates(Cambridge,MA)。88年、I.M.Pei and Partners(New York)勤務。90年、ラファエル・ヴィニオリ建築士事務所・東京事務所長に就任。96年、佐藤尚巳建築研究所設立。

